

## CAUA Forum 2011 全体講評

安東 孝二

学校法人根津育英会、IT Concierge、CAUA 運営委員

今回開催された「CAUA Forum 2011 災害に負けない大学の情報システムを考える」の開催にあたり全体プログラムの構成をさせて頂きました。東日本大震災から3ヶ月ほどしか経っておらず、いまだ多くの方が困難な状態に置かれていることもあり、開催の是非についても検討しました。運営委員の議論の結果、今だから出来ることをすべきだという合意の下、上記のテーマでCAUA Forumを開催することが出来ました。参加して頂いた方、関係者の方、ありがとうございました。

今回のForumでは震災直後でもあり実際に役立つ情報を持っている方をスピーカーにお迎えしました。筑波大学の佐藤先生には、「3.11 筑波大学の情報インフラはどうなっていたか?」という基調講演をお願いしました。地震直後から時系列を追いながら情報センターの生々しいお話をして頂くのに加え、当時の対応の反省点も挙げて頂きました。震災を機に情報インフラの重要性が再認識される中、筑波大学の経験は皆様の参考になったのではないかと思います。

パネルディスカッションでは三名の方をお招きし、それぞれ短時間発表して頂き議論に移りました。最初に日本大学総合学術情報センターの相川氏の「運用でカバーできる事できない事」というお話。地理的にも規模的にも巨大な学内ネットワークを持つ日本大学の情報システムが、計画停電というかつてない事態へどう対応したのかは、現実的で示唆に富むお話でした。次に、京都大学防災研究所の畑山先生の「災害時での情報システムに求められるもの」という防災の専門家としてのお話は、出来れば震災前に聞いておくべきだったと本当に思いました。防災の考え方の基本を見直す事で情報システムの見直しもうまくいくのだと思います。最後に京都大学学術情報メディアセンターの上原先生に「ICT 部門の事業継続計画と災害時対応」についてお話して頂きましたが、この三名の方のお話を聞いていれば自分たちの組織の災害対応計画が立てられるのではないかと感じました。

東日本大震災では情報システムの大切さが浮き彫りになる一方、混乱する社会の中で情報システムを運用する側、利用する側の矜持を問われることにもなりました。振り返ってこのForumが少しでもお役に立てていれば幸いに思います。